

vivo

4&5

APRIL/MAY
2008

CONTENTS

ブルーノ・レオナルド・ゲルバー ピアノ・リサイタル……………	1~2
映画『ノスタルジア』……………	2
〔茨城の名手・名歌手たち 第19回〕 出演者 オーディション……………	3
水戸芸術館 高校生音楽講座2008 [第2期] ……	3
SELF PORTRAIT 兼氏規雄……………	3
最近の公演から……………	4~5
プチ情報……………	5
インフォメーション……………	6



写真上: ブルーノ・レオナルド・ゲルバー
写真下: 映画『ノスタルジア』より

王道のベートーヴェンを奏でるピアニスト、16年ぶりの水戸芸術館リサイタル!

●5/10(土) ブルーノ・レオナルド・ゲルバー ピアノ・リサイタル

2006年、「モーツァルトに捧げる音楽の花束」。2007年「BACHのための4人」。水戸芸術館はこの2年、大作曲家をモチーフにした演奏会シリーズを実施してきました。モーツァルト、バッハと来たら…次はやはりルートヴィヒ・ヴァン・ベートーヴェン(1770~1827)! 18世紀から19世紀、貴族の時代から市民の時代へと移り変わる激動の季節を生きた、この大作曲家。世紀が変わっても、人々の間の争いや自然の破壊はおさまる気配のないこの時代、ベートーヴェンの音楽は私たちにどんなメッセージを伝えてくれるでしょうか。彼の音楽を主役にしたコンサートの数々を、水戸芸術館は皆様にお届けしてまいります。ここでご紹介するブルーノ・レオナルド・ゲルバーのピアノ・リサイタルを第一弾として、9月上旬のミト・デラルコ第11回演奏会(初期弦楽四重奏曲を中心としたプログラムを予定)、10月5日(日)のハーゲン弦楽四重奏団演奏会(後期弦楽四重奏曲によるプログラム)と続きます。この他にも、当シリーズに加わる演奏会が現れるかもしれません。また、次ページでご紹介する映画『ノスタルジア』の上映や「高校生音楽講座」など、関連した企画も続々と登場します。どうぞお楽しみに。そして、水戸室内管弦楽団第72回定期演奏会&ヨーロッパツアー(指揮:小澤征爾)では〈交響曲 第4番 変ロ長調 作品60〉が、第73回定期演奏会(指揮:準・メルクル)では〈交響曲 第6番 へ長調 作品68 “田園”〉が演奏されることも、ぜひ申し上げておかなければならないでしょう。

さて、ブルーノ・レオナルド・ゲルバー。水戸芸術

館では1992年5月にリサイタルを行ったのを皮切りに、水戸室内管弦楽団とは第18回定期演奏会(94年)、第25回定期演奏会(96年)、第64回定期演奏会(2005年)と3度にわたって共演するなど、縁の深い音楽家です。5度目の登場です。果たしてどのくらいのお客様が来てくださるか、とどきどきしていたのですが、蓋を開けてみればすごい売れ行き! このvivoが皆様の手に届く頃まではまだチケットは残っていると信じたいのですが、それにしても演奏会当日までには完売間違いなしの勢いです。「いいものは何度聴いてもいい」という皆様の期待の大きさに、胸が熱くなる思いです。それはゲルバー本人も同じでしょう。何しろ、初来日から40年目となる節目の年の来日ツアーに臨んで、「ぜひ水戸芸術館で弾きたい」と言ってくれたとのこと。そしてそれに対し、これだけ熱気あふれる反応が返ってきているのですから。

それにしても今回のリサイタルのプログラムは凄いです。オール・ベートーヴェン・プログラムであるのはもちろん、選ばれた4曲は〈ソナタ 第14番 嬰ハ短調 作品27の2 “月光”〉、〈ソナタ 第21番 ハ長調 作品53 “ヴァルトシュタイン”〉、〈ソナタ 第8番 ハ短調 作品13 “悲愴”〉、〈ソナタ 第23番 へ短調 作品57 “熱情”〉! 「三大ソナタ」どころか「四大ソナタ」ではありませんか。我々スタッフ一同も、このプログラム案を見たときには「マジですか!」とのけぞりました。しかし、「やっぱりこれでしょう!」と全員一致するのには、さほど時間はかかりませんでした。「三大ソナタ」「四大ソ

ナタ」なんて、うっかりすればいかにも「売らんかな」プログラムにとられかねません。しかし弾くのはゲルバーです。92年のリサイタルで〈テンペスト〉を聴いた方なら、あるいは2005年のMCOとの共演で〈ピアノ協奏曲第3番〉と〈第5番〉(これも凄い組み合わせですね…)を聴いた方なら、彼が並々ならぬ決意と自信をもって、これだけの超有名曲に臨んでいることをお察しいただけるでしょう。それに、実は水戸芸術館の演奏会で、これらのソナタが登場したことは実はかなり少ないのです。それをゲルバーの演奏で一気に聴けるのですから。

ゲルバーのベートーヴェン演奏。それは、ベートーヴェンの音楽が持っている広大な可能性を、圧倒的な技術と驚嘆すべき音楽への同一化によって汲みつくすことにほかならないと言えます。今、手もとに1989年2月号の『レコード芸術』誌があり、濱田滋郎氏がゲルバーにインタビューしている記事が掲載されているのですが、その中でゲルバーはくり返し、解釈云々よりも楽曲への忠実さ、音楽が自分に語りかけるものの重視、そして「靈感の作用」を強調しています。そしてテクニックは、あくまで表現の手段として奉仕すべきものである、とも。口にすれば至極当然にも聞こえるこれらの言葉が、ゲルバーのピアノを思い浮かべると、即座に説得力をもって響きます。さまざまベートーヴェン「解釈」が乱立する現在、そのひとつひとつから教えられることもまた多いのですが、まっすぐに作品と向かい合い、ちょうどリヒテルが「演奏者は鏡だ」と述べたように、作品のあ



写真左：ブルーノ・レオナルド・ゲルバー
写真右：映画『ノスタルジア』より

るべき姿を真摯に映しだす(それも壮大さと細部の織細さを兼ね備えた大伽藍として) ゲルバーの演奏に立ち戻る意義は、決して失われることはないでしょう。そして、CD録音をめったにしない(それゆえに、本当なら、はるかに高くしてかかるべき名声をあえて手にしようとしな)ゲルバーだけに、生演奏によってそれを体験できる今回の演奏会は、本当に貴重な機会だと言えます。

このインタビューの中で、ゲルバーは吉田秀和館長とベルリンで知り合ったのが、日本に行くきっかけとなった、と述べていました。吉田秀和館長が、ゲルバーを「発見」し、日本にそのすごさを知らしめた評論は、『吉田秀和全集6 ピアニストについて』(白水社)の中で、読むことができます。このリサイタルに足を運ばれる方は、一読を強くお勧めします。その中で吉田館長はゲルバーが何十年後に達

するだろう境地を期待をこめて想像していますが、まさにその「何十年後」を経て、円熟の極みにあるゲルバーを、この水戸芸術館で生で聴くことができるという幸せ。それを一人でも多くの方に味わっていただきたいと思います。 《矢澤》

ベートーヴェンを手がかりに、至上の傑作映画を観る。

●4/12(土) 映画『ノスタルジア』 特別上映

ベートーヴェンの「音楽」は、ゲルバーのピアノ・リサイタルで存分に味わっていただけたと思います。しかし、彼の音楽に触発されたり、その音楽の現代に生きる意味をあわせて考えたりする他ジャンルの芸術作品をあわせて体験するのも、また一興と申せましょう。

「シリーズ：ベートーヴェンは生きている」の関連企画として、映画『ノスタルジア』の上映を実施します(共催はNPO法人シネマパンチ)。監督は、アンドレイ・タルコフスキー。「旧ソ連」を代表する、最後の大映画監督と言って過言ではない存在でしょう。『僕の村は戦場だった』『アンドレイ・ルブリョフ』『惑星ソラリス』『サクリファイス』…一作一作が世界の重みを引き受けるような濃い内容を持ち、また観る者を別世界に誘う詩的映像美によって、死後20年が経過してもますます評価を高めている映画監督です。ちなみに彼の弟子が昨年ACMでご覧いただいた『ロストロポーヴィチ 人生の祭典』の監督、アレクサンドル・ソクーロフです。

『ノスタルジア』は1983年に撮られた、彼の最高

作であるばかりか映画史上の傑作として名高い一本。イタリアで撮られていることを不思議に思われるかもしれませんが、これは芸術創造の自由が限定されたソ連から亡命を決心したタルコフスキーが当時の「西側」で撮った第一作なのです。そのタイトルが示すように、タルコフスキーの分身というべき亡命詩人(オレグ・ヤンコフスキーの名演!)が深い郷愁の病にとりつかれながら、イタリアの地をさすう物語です。タルコフスキーの手にかかると、霧のたちこめるトスカナ地方がこの世ならぬ風景に一変します(名手トニー・グエッラのカメラも見逃せません)。彼ならではの恐るべきカメラの長回しの中で、繰り返される問い… 故郷とは? 世界とは? 人類の行く末とは? あまりにも切実な問いをほらみ、あまりにも予言的なその内容は、21世紀の今を生きる私たちに、圧倒的なリアリティで響きます。その問いの重さには、公開当時「ポッティチェリの画のよう」と評されたヒロイン(ドミツィアナ・ジョルダナ)の眩暈のするような美しさも、回答とはなりません。

映画は中盤から、北欧の名優エルランド・ヨセフソン演ずる、世界の終末と救済のイメージにとりつかれた男が登場し、徐々に衝撃のクライマックスへと向かっていきます。そこで鳴り響くのがベートーヴェン(第9)。タルコフスキーの(第9)の使い方からは、現代人がベートーヴェンに託す希望と絶望の最深度を感じずにはられません。

この映画、一度はぜひ大画面で体験していただきたいと思います。ACM劇場の空間で、包み込まれるように、世界が変貌する体験をしていただけるはずです。上映は4月12日(土)14:00から。上映に先立ち、いつものようにプレトークを行い、この深遠な作品に足を踏み入れるための短いガイドをさせていただきます。ゲルバーのチケットと一緒に購入すれば800円ですが、そうでなくても1,000円。映画ファンはもちろん、ゲルバーのチケットをもう買われてしまった方も、ぜひどうぞ!なお、『ノスタルジア』に関する情報は担当者ブログにアップ中! <http://arttowemito.or.jp/blog/yazawa>内「ノスタルジア」の項目をご覧ください。 《矢澤》

次なる名手が誕生します。

●4/27(日)「茨城の名手・名歌手たち 第19回」出演者オーディション

茨城県出身の優れた音楽家を広く紹介したいという想いから、開館以来毎年開催している「茨城の名手・名歌手たち」。10月4日(土)に開催予定の第19回演奏会に先立ちまして、出演者オーディションを開催します。

今回募集するのは、鍵盤楽器・弦楽器・邦楽器各ソロ部門と邦楽アンサンブル部門です(管楽器・打楽器・声楽と器楽アンサンブル部門は次回募集しま

す)。4月1日(火)まで応募を受けつけていますので、ご興味のある方は応募要項をご請求ください。

このオーディションに合格したことから、「茨城県の演奏家による演奏会企画」にも意欲的にご応募いただき、見事審査を通過しリサイタルを開催している方が多くいらっしゃることは、頼もしい限りです。ちなみに、前回の鍵盤楽器部門合格者から小野智恵さん、邦楽アンサンブル部門合格者から初見

宗郷さんが、昨2007年度の演奏会企画としてリサイタルを行っています。他にも多くの方が、芸術館の様々な企画にも出演されるなど、活躍の幅を広げています。

なお、このオーディションは入場無料で一般公開されます(詳細はお問い合わせください)。次なる名手の誕生に、どうぞご期待ください。 《中崎》



写真：兼氏 規雄

高校生音楽講座 第2期、始動！

●受付開始は4/3(木)！

こんなに盛り上がっていただけるとは、担当者もびっくりでした。昨年スタートした「高校生音楽講座」は、毎回定員を上回る申し込みをいただき、最後までその勢いは衰えませんでした。「わかる必要はない、感じてみよう」という言葉を封印し、「考える」ことにこだわったこの講座、高校生の皆さんの知的好奇心と関心の高さに刺激され続ける全6回でした。全6回がどんな具合だったかは、担当者ブログの中 <http://www.arttowermito.or.jp/blog/yazawa/> 中の「高校生音楽講座2007」のカテゴリーをご覧ください。

熱い声援に背中を押されて第2期を始めることができるのは嬉しい限りです。ゲルバー・リサイタルの欄でもご紹介したシリーズ「ベートーヴェンが生きている」に関連しての「ベートーヴェンを追いかける」全3回を筆頭に、今回もますます深く音楽の不思議と面白さに迫ってみたいと思います。予

定している内容は以下の通りです。

- 第1回 2008年4月25日(金)「ベートーヴェンを追いかける 1: 立志篇」[関連演奏会: 5月10日(土)『ブルーノ・レオナルド・ゲルバー ピアノ・リサイタル』]
- 第2回 2008年6月27日(金)「ベートーヴェンを追いかける 2: 怒濤篇」[関連演奏会: 7月5日(土)6日(日)『水戸室内管弦楽団 第73回定期演奏会』]
- 第3回 2008年9月12日(金)「ベートーヴェンを追いかける 3: 超越篇」[関連演奏会: 10月5日(日)『ハーゲン弦楽四重奏団演奏会』]
- 第4回 2008年10月10日(金)「楽器が違くと、音楽も違う?」[関連演奏会: 10月18日(土)『ソフィエ・イエーツ チェンバロ・リサイタル』]
- 第5回 2008年10月31日(金) 内容未定 [11月8日(土)と9日(日)に行われる『水戸室内管弦楽団 第74回定期演奏会』と関連する内容を予定]

■第6回 2009年1月16日(金)「即興——楽譜のかなたへ」[関連演奏会①: 2009年2月予定『平野公崇 サクソフーン・リサイタル』②&③: 2009年1.3月予定『モーツァルト: ピアノ・ソナタ全曲演奏会 第3回&第4回』]

各回の時間は17:00 - 19:00、定員は各回につき30名(定員になり次第締め切り)、申し込み開始日は4月3日(木)。参加料金は1回200円、全6回通して参加する場合は1,000円(水戸芸術館音楽部門に電話でお申込ください)。出席者は関連する演奏会を学生料金(原則として一律1,000円)で聴ける特典があります(通常、学生券は開演1時間前に残席があるときのみ発売です)。詳しくは講座当日。全6回の参加者にはスペシャル・プレゼントをご用意?? お申込・お問い合わせは担当の矢澤・中崎(TEL029-227-8118)までどうぞ! (矢澤)

SELF

PORTRAIT

3種類のクラリネットと弦楽四重奏による、ロマン派室内楽の夕べ。

■4/29(火・祝) 兼氏 規雄 クラリネット室内楽 演奏会

移調楽器であるクラリネットは全部で11もの種類があり、クラリネットだけで大編成のオーケストラができてしまうぐらい、低音域から高音域まで実に豊富な品揃えです。

音域が違えば楽器の長さも違い、小さなものは25cm、一番大きな楽器になると2mを超えます。小さい(高音)順に並べると、最高音域のソプラニーノ・クラリネットが3本(A \flat [変イ調]・E \flat [変ホ調]・D[二調])、高音域のソプラノ・クラリネットが3本(C[ハ調]・B \flat [変ロ調]・A[イ調])、中音域が2本(バセット・ホルンF[ハ調]・アルト・クラリネットE \flat [変ホ調])、低音域が2本(バス・クラリネットB

\flat [変ロ調]・コントラルト・クラリネットE \flat [変ホ調])、最低音域が1本(コントラバス・クラリネットB \flat [変ロ調])となります。この中で、ソプラノ・クラリネット以外は特殊楽器と呼ばれ、ソロの曲ではほとんど使われることがありません。

さて、今回の演奏会では3本のソプラノ・クラリネットをすべて使います。幕開けのクルーセル<クラリネット四重奏曲 第2番>はB \flat [変ロ調]管によります。この楽器はクラリネット族の中では最も使用頻度が高く、吹奏楽でも使われることから、初心者はずまずこの楽器を購入します。明るい響きで音色も華やかな上、ピアノシモ(pp)は非常に柔らかく、フォルテシモ(ff)では激しくドラマティックに響きます。また表現力も非常に富んでいます。

メインのブラームス<クラリネット五重奏曲>ではA[イ調]管が使われます。幸運にも晩年のモーツァルトとブラームスはこのA管のために、音楽史上、非常に重要な名曲を幾つか残しました。音色はB \flat 管に比べ豊かで柔らかく、幾分哀愁を帯びているため、晩年の彼らの心情には極めて適したものでしょう。

残るC[ハ調]管は休憩前のロッシェニ<変奏曲>で使われます。ベートーヴェンなどをはじめ、昔はとても頻繁に使われていた楽器ですが、20世紀に入っ

てからはその“ひなびた音”が敬遠されるようになり、いつしか忘れ去られ、どちらかといえば特殊楽器的扱いになってしまいました。しかし今世紀になって、製造技術の進歩により音色の特性、特に尖った鋭い音になりやすい性格は大幅に改善され、また最近のリバイバルブームも手伝い、その“古典的音色”は再び脚光を浴びることとなったのです。

クラリネットの場合、依頼される仕事はオリジナルの曲ばかりではなく、アレンジされた曲も多く、ヴァイオリンやフルートなど他の楽器の楽譜を使うことも度々あります。移調楽器は楽譜上でのドを吹くと、実際に出る音はA管の場合はラ、B \flat 管の場合はシのフラットとなるため、同じ音を出すには楽譜を書き替えるか、同時進行で読み替えるかの選択をしなければなりません。どちらも非常に煩雑な作業に変わりはなく、他の楽器のための楽譜を移調せずにそのまま演奏することのできるC管は、非常に魅力的だと言えます。

華やかなB \flat 管、響きの柔らかいA管、古楽器的なC管、これら3種類のクラリネットの音色を聴き比べるだけでも興味深い演奏会になると思います。弦楽四重奏は、2006年の私のリサイタルに続いての共演となる、「カルテット・エクセルシオ」です。是非、お楽しみ下さい。

最近の公演から

JANUARY
FEBRUARY



1



2



3



4



5



6



7

ニュー・イヤー・コンサート2008 (1月5日)

専属楽団メンバーと豪華ゲスト(今年はメゾ・ソプラノの林 美智子さんが客席に降りてまでの大熱演!さらに、吉野直子さん独奏のハープ協奏曲も)で名曲の数々をお届けする恒例の水戸芸術館ニュー・イヤー・コンサート2008、今年は「音楽の女神(ミューズ)に捧ぐ」のタイトルのもと、「女性」をテーマにしたプログラムをお届けした。NHK アナウンサー内藤裕子さんの暖かい語り口による司会のもと進められた2時間50分の大コンサート、お楽しみいただけましたでしょうか。曲目は以下の通り。ヨハン・シュトラウスII世(ベルク編曲):ワルツ〈酒・女・歌〉作品333(室内アンサンブル版)/パダジェフスカ:乙女の祈り/ドビュッシー(ハルトマン編曲):亜麻色の髪の乙女/クライスラー:美しきロスマリン/ファリャ(コハンスキ編曲):〈スペイン民謡組曲〉から“アストゥリアーナ”/マスネ:タイスの瞑想曲/クライスラー:ラ・ヒターナ/シューマン:〈ケルナーの12の詩〉作品35から第9曲“問い”/クララシューマン:〈愛の春〉作品37から第11曲“なぜあなたは他のひとたちにたずねるのですか”/シューマン:〈ケルナーの12の詩〉作品35から第10曲“ひそかな涙”/ブラームス:(2つの歌)作品91から第2曲“聖なる子守歌”/休憩/モーツァルト(キャトル・ヴィオロン編曲):歌劇〈魔笛〉K.620から“パ・パ・パ”/チャンピ(編曲者不明):歌劇〈3人のおかしな伊達男〉から“3日もニーナは眠ったまま”(伝ベルゴレージ:〈ニーナ〉)/ルニエ:黙想/伝パラディス(ドゥシュキン編曲):シシリエヌ/ヘンデル:オラトリオ〈メサイア〉HWV56から“ラッパが鳴ると”/レハール:歌劇〈メリー・ウイドウ〉から“ヴィリアの歌”/ビゼー:歌劇〈カルメン〉から“恋は野の鳥(ハバネラ)”/ヘンデル:ハープ協奏曲 変ロ長調 HWV294。詳しい出演者等の情報については、担当者ブログ<http://www.arttowermito.or.jp/blog/yazawa/>内の2008年1月6日の日記をご覧ください。また、本演奏会はNHK茨城県域デジタル放送で生中継されました。今後も再放送があるかもしれません。《矢澤アンケートから》●新年早々、たくさんの素敵な曲と演奏をさき、この一年も頑張れる勇氣と喜びをかみしめることができました。(那珂市:無記名の方)●まるで、音楽の福袋のようですね。(水戸市:Y.K.さん)●独自性がありよかったです(野田市:K.K.さん)●内藤アナウンサーに自分の名が読みあげられるなんて驚き、赤面、光栄の至りでした。(水戸市:R.A.さん)●林さんの笑顔と伸びやかな歌声 気持ちがとても良かった。(T.A.さん)

高校生音楽講座 in 水戸芸術館 2007 第6回 (1月17日)

最終回のテーマは「モーツァルト、なにがそんなにすごい?」。貴族社会のデッド・エンドで、吉田秀和館長の言う「噴火口上の軽やかな舞者」とし

ての運命を生きたモーツァルトを、同時代の他の作曲家の作品と対比させながら紹介。最後は〈ジュピター〉交響曲の終楽章を、楽譜を用いず「見取り図」を使って聴く鑑賞にトライ。講座終了後に、全6回の皆勤者を表彰し、吉田秀和館長の著書『モーツァルトを求めて』をプレゼントした。講座の内容については担当者ブログ<http://www.arttowermito.or.jp/blog/yazawa/>内の2008年1月17日の日記をご覧ください。高校生の皆さん、最後までご静聴ありがとうございます。第2期もいよいよスタート、詳しい内容は3ページをどうぞ。 《矢澤

モーツァルト:ピアノ・ソナタ全曲演奏会【第1回】演奏とお話:野平一郎 (1月25日)

1年に2回ずつ、3年・全6回をかけて、モーツァルトのピアノ・ソナタ全18曲を年代順に聴いていくこの企画が、たくさんのお客様をお迎えしてスタートを切った。【第1回】は、モーツァルトが19歳のときミュンヘンで作曲した6曲のソナタのうち第1番から第5番までと、さらに若い頃に書いたメヌエットや変奏曲が演奏された。野平一郎さんはお話のなかで「当時モーツァルトが熱中していたオペラの音楽的要素がピアノ・ソナタの中にも認められる」と語っていたが、まさにオペラ・ブッフアの一場面を髣髴とさせる表情豊かで生き生きとした演奏で聴衆を魅了した。アンコールは、サリエリの〈ヴェネツィアの市〉第2幕フィナーレの主題による6つの変奏曲ト長調K.180 (173c)。 《関根

アンケートから》●お話があるとより曲への関心が高まり、とても楽しく聴くことができました。次回も楽しみにしています。(ひたちなか市:K.K.さん)●野平さんの解説と演奏、この2つがあいまってすばらしいステージだったと思います。モーツァルトについてもっと知りたいと思いました。大成功です。(水戸市:K.S.さん)●とても幸せな気持ちでモーツァルトを聴きました。知的で温かみのある演奏に、モーツァルトの世界が広がった心地です。お話をはさみながら自然に弾かれるスタンスが素敵です。(K.O.さん)●構成がすばらしかった。モーツァルトの、一人の人間としての成長の過程が垣間見えた気がしました。(那珂市:Y.T.さん)

アルモニア Rosa コンサート (2月3日)

水戸市内の合唱団コールリラとコールエリオが合同して2003年に結成された女声合唱団アルモニア Rosaが、初めてのコンサートを水戸芸術館で開いた。アルモニア Rosaの指揮者・小柳景子さんがラインベルガー〈ミサ曲 作品155〉(オルガン:大平健介)、信長貴富〈思い出すために〉(ピアノ:井上修)を指揮したほか、客演指揮の藤井宏樹氏が松下耕〈静かな雨の夜に〉(ピアノ:井上修)を指揮。また、藤井氏が率いる女声アンサンブルJuriも特別出演し、パレストリーナ〈アヴェ・マリア〉、三善晃〈悲し

1~4. ニュー・イヤー・コンサート2008

5~7. モーツァルト:ピアノ・ソナタ全曲演奏会【第1回】



1



2



3



4

みについて)などを披露、盛りだくさんのステージに満場の客席は大いに沸いた。アルモニア Rosa とアンサンブル Juri が合同し、藤井氏が指揮をとったアンコールは、さだまさしの〈天までとどけ〉(松下耕編曲)。

〔関根〕

アンケートから ●小柳先生のエレガントな指揮に合わせて素敵なコーラスでした。ゲストの素晴らしい感動でした。最後のアンコール、深みのあるコーラスになり、イキイキとして素晴らしいです。(水戸市:K.N.さん) ●Juriの本物のハーモニーを聴くことができとても良かったです。アルモニア Rosa もコーラスのお手本のような合唱が良かったです。(常陸大宮市:J.N.さん) ●普通の暮らしをしている人たちが、時間を割き、練習成果を発表することに表敬したいと思いました。「努力」「継続」の意味を深く感じたステージでした。(水戸市:S.T.さん)

中学生のための音楽鑑賞会(2月27、28、29日)

水戸市立中学校全16校と茨城大学附属中学校、茨城中学校、水戸英宏中学校の1年生、およそ2,700人をホールに招いて開催した鑑賞会。出演は水戸室内管弦楽団の最も若いメンバーである川崎洋介さん(ヴァイオリン)とヴォルフラム・ケッセルさん(チェロ)、ヴァディム・セレブリャーニーさん(ピアノ)。演奏会全体を『千一夜物語(アラビアン・ナイト)』の中のシェエラザードがシャーリアール王に語る物語とその音楽として構成した。リムスキー=コルサコフ、

シェーンベルク、リスト、スメタナなどの作品とその物語をお楽しみいただいた。終演後、希望者はエントランスホールでパイプオルガンによるバッハの〈小フーガト短調 BWV578〉の演奏を鑑賞した。オルガン演奏は中田恵子さん。

〔中村〕

中学生のアンケートから ●物語の続きが気になって、演奏も場面を想像しながら聞いていました。(第五中生) ●楽器と語りに、恐怖、愛、悲しみ、嘆きなど、たくさんの感情が伝わっていると思いました。音楽に感情がこもっていると、私たちも、たくさんの感情がわきあがってくるものだと思います。(第一中生) ●最後のパイプオルガンの曲も、心に残りました。(双葉台中生)

ちょっとお昼にクラシック7(2月29日)

上記「中学生のための音楽鑑賞会」と同じ出演者、プログラムで、平日の昼間に気軽にお楽しみいただくコンサートとして開催しているのが「ちょっとお昼にクラシック」シリーズ。川崎洋介さんたちのエネルギッシュな演奏が、劇的な舞台を実現させていた。

〔中村〕

アンケートから ●すばらしいの一言。ハーモニーが美しく感動でした。企画もたいへん良かった。(無記名の方) ●言葉のウェイトが想像以上に大きく、音楽がバックグラウンドにまわってしまったように感じた。もう少し音楽で想像をふくらませる構成の方が良かったのでは。(無記名の方)

1～2.アルモニア Rosa コンサート
3～4.中学生のための音楽鑑賞会・ちょっとお昼にクラシック7



●吉田秀和館長の最新刊が登場しました。『永遠の故郷一夜』(集英社)。歌曲に焦点をあてた注目の内容で、既に大きな話題となっています。一方、2006年まで水戸室内管弦楽団(以下MCO)のオーボエ奏者として活躍した宮本文昭氏の新刊『疾風怒濤のクラシック案内』(アスキー新書)も登場しました。演奏家ならではの視点が光る名曲案内です。

●専属楽団メンバーのCD、続々発売中! まず、MCOおよびATMアンサンブルメンバーの豊嶋泰嗣はヴァイオリン・ソロ・アルバム『テンダリー』[エクストン EVCL-00008]を発表(ピアノは三輪 郁)。サン＝サーンス:〈序奏とロンド・カプリチオーソ〉などの名曲をはじめ、コルンゴルト:〈から騒ぎ〉からの組曲、ザジツキ:〈サラサーテのためのマズルカ〉など、知られざる名曲も登場する、凝った内容です。また同じヴァイオリンでは、ATMアンサンブルのメンバー小林美恵がフォーレ:ヴァイオリン・ソナタ第1番、第2番ほか[エクストン OVCL-00284]を発表。〈夢のあとに〉などフォーレの小品が6曲も併録されています。ピアノはフランスの名匠、パスカル・ロジェ。チェロでは、MCOメンバーの松波恵子が、J.S.バッハ:〈無伴奏チェロ組曲〉(全曲)という大作を発表[モルト・フィーネ MF23801～2]。第6番から始まり、2→3→5→4→第1番と進む、独自の曲順で録音されています。同じくMCOメンバーであるホルンのラデク・パボラークは、すでにかかなりの数のアルバムを発表していますが、新作はハーブの吉野直子とのデュオ・アルバム『Duo de Rêve』[クリストン OVCC-00058]。クーツィール:〈ホルンとハーブ

のためのソナタ〉、アンドレス:〈晩秋の歌〉というオリジナル曲をはじめ、ラヴェル:〈亡き王女のためのパヴァーヌ〉等の編曲作品が収録されています。以上、水戸芸術館ミュージアムショップ、コントロールポアン(TEL.029-227-0492)で販売しております。

●ご報告ですが、今年も1月から2月にかけて、矢澤・関根・中村のスタッフ3人が水戸市国際交流協会にて、連続講座「ヨーロッパの街と音楽」の第4期を行いました。今年はMCOが第3回ヨーロッパ・ツアーで訪れる5つの都市のうちミュンヘン、ウィーン、パリ、マドリッドに焦点を当て(もうひとつの街フィレンツェはバリ篇で触れました)、それぞれR.シュトラウス、新ウィーン楽派、ヴェルサイユ楽派、ファリャとロドリゴ(特に〈アランプエス協奏曲〉)の音楽を取りあげつつ、全4回の講座を通じて音楽と街と歴史とのかかわりをさぐりました。定員を上回る数のご応募をいただき、ありがとうございました。このような機会を与えてくださった水戸市国際交流協会の皆様に感謝申し上げます。講座の詳しい様子は矢澤のブログ <http://www.arttowernito.or.jp/blog/yazawa/> 内の2008年1月9日、2月14日、2月21日の日記をご覧ください。

水戸芸術館の主な4・5月のスケジュール

コンサートホールATM

- 水戸市芸術祭 茨城交響楽団水戸芸術館演奏
4/13(日) 14:00 開演 料金(全席自由): ¥1,500
- 「茨城の名手・名歌手たち 第19回」出演者オーディション
4/27(日) 入場無料 ※詳細はお問い合わせください。
- 兼氏規雄クラリネット室内楽演奏会
4/29(火・祝) 14:00 開演 料金(全席指定): ¥3,000
- シリーズ:ベートーヴェンは生きている ―その1―
ブルーノ・レオナルド・ゲルバー ピアノ・リサイタル
5/10(土) 18:30 開演 料金(全席指定): ¥4,000
- 水戸室内管弦楽団 第72回定期演奏会
5/28(水)、5/29(木)、5/30(金) 各日18:30 開演
料金(全席指定): S席 ¥13,000/A席 ¥11,000/B席 ¥8,000

エントランスホール

- パイプオルガンプロムナード・コンサート
4月: 5日(土)、19日(土)、20日(日)、26日(土) 5月: 11日(日)
開演時間: 12:00/13:30 (2回公演)
入場無料 ※演奏は各回20分程度です。
- ゴールドenウィーク・スペシャル(親子で楽しむパイプオルガン・コンサート)
5/5(月・祝) 12:00 5/6(火・祝) 12:00 出演: 柳澤文子 入場無料

ACM劇場

- 「ベートーヴェンは生きている」関連企画・特別上映
映画『ノスタルジア』 4/12(土) 14:00～(プレトークあり) 料金(全席自由): ¥1,000
※ブルーノ・レオナルド・ゲルバー ピアノ・リサイタル[5/10(土)]のチケットと一緒に購入すると ¥200引き
- 立川志の輔 独演会
4/15(火) 19:00 開演 料金(全席指定): ¥3,500
- 野村万作抄16 「八句連歌」『花折』
4/19(土) 16:00 開演 料金(全席指定): S席 ¥4,000/A席 ¥3,000/B席 ¥2,000
- 劇団唐組 新作水戸公演『夕坂童子』
会場: 水戸芸術館広場特設紅テント(雨天決行)
5/16(金)、5/17(土)、5/18(日) 各日19:00 開演
料金(全席自由): 一般 ¥3,000/団体(10名以上) ¥2,700/学生 ¥2,000
※ 3/29(土) チケット発売

現代美術センター

- 宮島達男 | Art in You
2/16(土)～5/11(日) 9:30～18:00(入場は17:30まで)
休館日: 月曜日 ただし5/5(月・祝)は開館します。
料金: 一般 ¥800/前売・団体(20名以上) ¥600
中学生以下・65歳以上・障害者手帳をお持ちの方と付き添い1名は無料

茨城の主な4・5月の演奏会 ※有料公演のみ

- ◆佐川文庫 TEL/029(309)5020
■ヴィルトゥオーゾ・カルテット・リサイタル ～N響メンバーによる～ 4/18(金) 18:30 開演
■アリス= 紗良・オット ピアノ・リサイタル 5/24(土) 18:00 開演
- ◆茨城県民文化センター TEL/029(241)1166
■綾戸智恵デビュー10周年記念ツアー 4/12(土) 16:00 開演
- ◆水戸市民会館 TEL/029(224)7521
■武蔵野音楽大学同窓会茨城支部 第36回定期演奏会 4/27(日) 14:00 開演
- ◆ひたちなか市文化会館 TEL/029(275)1122
■鼓童 ONE EARTH TOUR 2008 5/9(金) 18:30 開演
- ◆日立シビックセンター TEL/0294(24)7711
■音楽シリーズ2008 第18回ひたち出身者によるコンサート「音楽の園」
4/6(日) 14:00 開演
■音楽シリーズ2008 「合唱コンサート2008」 4/13(日) 15:00 開演
- ◆ギター文化館 TEL/0299(46)2457
■莊村清志ギターリサイタル 4/13(日) 15:00 開演
■ウリアナ 古箏コンサート 4/27(日) 15:00 開演
■藤井敬吾ギターリサイタル 5/3(土) 16:00 開演
■中林淳真ギターリサイタル 5/24(土) 18:00 開演
- ◆ノバホール TEL/029(852)5881
■木村 大「威風動々」ツアー 2008 4/6(日) 14:00 開演
■つくば学園都市オーケストラ 第41回定期演奏会 4/13(日) 14:00 開演
- ◆鹿嶋勤労文化会館 TEL/0299(83)5911
■ステファン・キエロフ弦楽四重奏団 ～近藤 良と世界の仲間～ 4/25(金) 18:30 開演

水戸芸術館音楽紙 [ヴァイヴ] 2008年3月発行 第132号

編集・発行 / 水戸芸術館音楽部門 〒310-0063 茨城県水戸市五軒町 1-6-8
TEL:029-227-8118 FAX:029-227-8130

e-mail [ankmr@arttowermito.or.jp] URL [http://www.arttowermito.or.jp/]

編集 / 水戸芸術館音楽部門 (五十音順): 佐川真美 関根哲也 中崎美智代 中村 晃

矢澤孝樹 (編集長)

DTP / 村田征司

印刷所 / 株式会社社あけぼの印刷社

次号は…
小澤征爾 & MCO、ヨーロッパへ飛翔!
そして準・メルクルが三たび!

information

■チケットに関するお問い合わせ

…水戸芸術館チケット予約センター / 029-231-8000

営業時間 / 9:30～18:00 (月曜休館)

■公演内容や企画に関するお問い合わせ

…水戸芸術館音楽部門 / 029-227-8118

■【ATM便り】毎月1回茨城新聞に不定期登場。

■NHK-FM 水戸「芸術もよま話」金曜日18:15頃から15分ほど。

水戸周辺 83.2MHz、日立周辺 84.2MHz。

■茨城放送 [タッチ・ミー・イン・ザ・モーニング] 内 [タッチ・ザ・クラシック]

毎週水曜日・朝6:50頃から約10分間

水戸周辺 1197KHz、土浦周辺 1458KHz

茨城県の演奏家による演奏会企画を募集します。

茨城県の演奏家による企画を募集します。

平成21年度の茨城の演奏家による演奏会企画を下記の要領で募集いたします。

【応募要項請求方法】

①水戸芸術館エントランスホール・チケットカウンター (9:30-18:00) にて直接入手

②80円切手を貼付し返信先を記入した封筒を同封の上、下記宛て郵送

③水戸芸術館ホームページ [http://www.arttowermito.or.jp/] よりダウンロード

【応募対象】

個人: 茨城県内の住民票をお持ちの方

団体: 茨城県を中心に活動されている団体

*ただし、平成20年度の「茨城の演奏家による演奏会企画」にご出演された方は応募できません。

【受付期間】2008年5月13日(火)～6月3日(火) [当日必着]

【結果の発表】2008年9月頃

【開催時期】平成21年度 (2009年4月～2010年3月)

【提出資料】

①所定の申込用紙

②これまでの演奏歴を示す資料 (演奏会チラシ等)

③住民票の写し

④2007年6月1日以降の演奏のデモ・テープ (または CD、MD、DAT)

⑤返信用封筒1部 (80円切手を貼付し、本人の住所・氏名を明記すること)

【お問い合わせ】

〒310-0063 茨城県水戸市五軒町 1-6-8 水戸芸術館 音楽部門「演奏会企画」係

TEL.029-227-8118 / FAX.029-227-8130 (担当: 矢澤)

チケット・インフォメーション

〈3月23日(日)発売分〉

◎Gruppe Rosen (ぐるっぺ・ローゼン)

6/22(日) 15:00 開演

料金(全席指定): 一般 ¥3,000/学生(大学生以下) ¥1,500

〈4月6日(日)発売分〉

◎水戸室内管弦楽団 第72回定期演奏会

5/28(水)、5/29(木)、5/30(金) 各日18:30 開演

料金(全席指定): S席 ¥13,000/A席 ¥11,000/B席 ¥8,000

◎水戸室内管弦楽団 第73回定期演奏会

7/5(土) 18:30 開演、7/6(日) 14:00 開演

料金(全席指定): S席 ¥8,000/A席 ¥6,500/B席 ¥5,000

第72回と第73回定期演奏会のセット券(限定300セット): S席 ¥19,000/A席 ¥16,000

※水戸芸術館のみの取り扱いです。

※発売初日に芸術館でお求めになれるチケットは、水戸室内管弦楽団第72回定期演奏会ではお1人様1回につき2枚までとさせていただきます。

※水戸室内管弦楽団定期演奏会には、4月2日より友の会維持会員、4月3日より友の会一般会員の先行電話予約がありますので、4月6日の一般発売の時点で券種によっては、お客様のご希望に添えない場合があります。ご了承ください。

これからの演奏会・残席情報

○…残席あり(20席以上) △…残席わずか(20席未満) ×…残席なし

中央…中央ブロック 左右・裏…左右ブロックおよびステージ裏 補助…補助席

◎映画『ノスタルジア』

4/12(土) ………………自由席○

◎兼氏規雄 クラリネット室内楽演奏会

4/29(火・祝) ………………中央○、左右○

◎ブルーノ・レオナルド・ゲルバー ピアノ・リサイタル

5/10(土) ………………中央×、左右・裏△

※3/9(日)現在の状況です。

※公演当日に残券がある場合、開演1時間前より水戸芸術館チケットカウンターでお得な学生券を発売いたします。ご購入の際には学生証(記念章)をお持ちください。公開セミナーなど、学生券のない公演もございますので、予めお問合せ下さい。

※固定席が売り切れ次第、補助席を販売いたします。